

MCC雑感2008-5

於：丸紅本社1階 コンチェルト

参加：10名

1) 康さんも急逝

先月の小林さんに続くかのように、大塚康さんが4月27日急逝されました。



予てより心臓にはペースメーカーが入っており、身障者を自認されてはいたけれども、それにしても何という突然のご他界！！
MCC創設の7人のサムライがこれで二人立て続けに消えました。

本当に心残りの残念なことですが、せめてもの慰めは、長期療養という苦しみは皆無、我々の全てが心底「羨む」ようなアット云う間の急逝でした。

浦安市斎場は丸紅OBの大群衆で溢れ、故人のお付き合いのよかったことを今更ながら思い知りました。
享年74歳。

2) NTTのショールームNOTE見学

先月のテーマはNGN（Next Generation Network）、今月の例会は有志の見学会から始まりました。

大手町のNOTE（NTT Open Telecom Experience）には8人の有志が集合して、60分のツアーを楽しみ、その後は大手町B1の美々久へ、昔懐かしい大

天もりを楽しみました。

NTTグループショールーム「NOTE」

NGNで実現する多様なサービスをわかりやすく、より具体的に体験できる空間、それがNTTグループショールーム「NOTE(NTT Open Telecom Experience)」です。次世代ネットワークの未来像を自由に描いてもらうために、またより多くの人々に新たなコミュニケーションのページを開いてもらうことを願って、常に最新の情報を発信してまいります。



中身の方は先月のお勉強から一歩も出るものではなく、案内役の可愛い子に質問するわけにも行かず、やや消化不良ではありました。

進化の速いITの世界とは云え、我々はNGNの現実到来を待てるのでしょうか？

3) 今月のトーク —XPの余命とパソコンの寿命—

イ) XPの余命

Microsoft Windows XP (マイクロソフト ウィンドウズ エクスペー) は、マイクロソフトが2001年に発表したPC用OSであり、2008年2月現在、最も利用者の多いOSでもある。

それまでやや安定性に欠けるところが多かった、ウィンドウズ9x系のPCは業務用のNT系と一体化して非常に安定度が高まり、セキュリティ対策のサービスパック、SP-1~3の補強をも得ながら依然として高い人気を誇っている。

このXPも、パソコンにプリインストールされた形としては、2008年6月30日を以て販売を終了することになっている。

愈々ウィンドウズはXPからVISTAに移行するということなのか！？

だが、マイクロソフトの対応はここへ来てまたまた微妙になっているようで、ULCPC (Ultra Low Cost Personal Computer) で、引き続きXP搭載機種を販売続けると云っている。またサポート期限は既に5年延長されている。

2007年初めに登場したVISTAはマルチメディア重視のOSとして満を持して登場したのだが、今ひとつユーザーの支持を得られておらず、マイクロソフトは異例とも云うべきXP販売及びそのサポート期限の延長、再延長を余儀なくされているのである。

マイクロソフト・OSの歴史

MS-DOS 1.0	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	
MS-DOS 2.0																													
MS-DOS 3.1																													
MS-DOS 4.0																													
MS-DOS 5.0																													
Windows 1.0																													
Windows 3.0																													
Windows 3.1																													
Windows 95																													
Windows 98																													
Windows 98 2nd																													
Windows 2000/Me																													
Windows XP																													
Windows Vista																													
Windows NT 3.1																													
Windows NT 3.5																													
Windows NT 3.51																													
Windows NT 4.0																													
Windows NT 5.0																													
Windows NT 5.1																													
Windows NT 5.2																													
Windows NT 6.0																													
Windows NT (7.0)																													
16 bit																													
32 bit																													
64 bit																													

かく云う私も2002年10月購入のXPと、2007年4月のVISTAとを併用しているものの、主力機器としては断然XPとなっているのは、XPの方が使い勝手がよい、逆にVISTAにはこれというメリットが見出せないからなのだが、それではこのXPが果たして余命幾許かと考えることが多くなっていることも認めざるを得ない。

今回はXPの余命を占いながら、一般的なパソコンの寿命というものを考える。

註： XPのサポートサイクル

2007年1月25日、マイクロソフトはWindows XP(Home)について、2009年4月から2014年4月まで5年間の延長サポートフェーズを提供すると発表した。

これは、次代OSのWindows Vistaの一部のエディションより2年長い。

ただし、延長サポートフェーズはメインストリームサポートフェーズとは違い、セキュリティ関係以外のアップデートはなく、無償サポートも受けられなくなる。

ロ) パソコンの寿命とは

税法上では、パソコンの減価償却期間は4年となっており、長期保証も通常は5年までとされています。

一般的にはパソコンの寿命はユーザーにより異なるとは云え、5年～10年というのが常識ですが、どうしてこのように幅があるのでしょうか？

i) 物理的寿命

単純に考えても精密機械であるパソコンは当然のことながら5年くらいでアウトというところでしょう。

壊れやすいのは回転部分ーディスク・ドライブ・・・パソコン・ユーザーが最初に恐れおののくのはハードディスク・クラッシュです。

またフロッピー・ディスク、CD/DVDドライブも回転機器でありますから、同様に壊れやすい部分と考えるべきでしょう。

心臓と云うべきCPUは、冷却ファンは回転機器ではありますが、CPU本体は壊れやすい機器とは云えません。

またその他の主要機器たるマザーボード、メモリーなどは動かない部品ですから、殆んど損壊しないと考えていいでしょう。

またパソコンは筐体を開けて見ればすぐ理解できるように、沢山の部品をアッ

センブルした機器ですから、部品交換は可能であり、一部の損傷が本体すべてをギブアップせねばならないというわけではなく、この意味でも存外長期間の使用が可能です。

以上のことから考えれば、パソコンは丁寧に使えば結構長持ちするマシンと云えると思いますが、問題はパソコンは家電品とは異なり、その寿命については単純にフィジカルな問題ばかりでは計れないという事です。

ii) ソフト的な老朽化

パソコンの寿命を考える時、取得時点の性能が経年劣化することは絶対にはないのですが、時代遅れの性能になることは必定ですし、OSの改変周期からみても、パソコンはだいたい5年で老朽化してしまう、つまり時代遅れになるとみていいでしょう。

パソコン及びその周辺機器、回線速度、諸々のソフトウェアは進化の速度が非常に早いという特徴があり、ユーザーはどうしても新しい機能に目を奪われてしまうことは避けがたいことです。

そして、ユーザーが守旧派である場合は、後生大事に古いマシンを使い続けることは可能ですが、どうしても進化に沿って利用方法や内容が変化して来ると、それに応じてパソコン本体のライフサイクルもまた短くなることは避けがたい宿命なのです。

まあ、パソコンはこれだけ使ったから買い替えなさいというルールなんてありません。ただ、一般的にビジネスアプリケーションやネット、メールといった用途ならば4～5年、ゲームやDTPなど最新技術や高い処理能力を必要とする作業が主な用途の場合は、3年程度が買い替えの目安と云えるでしょう。

ハ) パソコンを長持ちさせる3つの方法

パソコンを生き物のように扱う？

パソコンをお持ちの方で、ご自身のパソコンの「健康状態」に気を使っている方はどれだけいるのでしょうか。「健康」などと書くと「いったい何を言っているんだ？」と思われる方もいるでしょう。しかしパソコンの状態を良くしようとすると、まるで「生き物」のように扱う必要があることがわかるのです。

もちろん「うちのパソコンは何もしなくてもちゃんと動いてるよ？」とおっしゃる方もいるでしょう。しかしパソコンの発するメッセージに耳を傾け、ちょっと気を使ってあげるだけでパソコンの寿命が延びるとしたらどうでしょうか？人間やペットなどの生き物と同じように、パソコンもケアをすることで寿命を延ばすことができます。

■熱いところは苦手です

■精密機器なので、ホコリは苦手です

■考えているときは待ってあげましょう

これ以外に「水」と「衝撃」は論外の暴挙であることは云うまでもありません。

二) パソコンの寿命についての日常ケア

主なメンテナンスはたった2つだけ！

『メンテナンス』というとすごく難しく、面倒くさいことをしなければいけないのか？というような感じがします。

でも、実際にする作業はたった2種類で、数回クリックするだけです。あとはパソコンが勝手にメンテナンスをしてくれるんです。

【 チェックディスクの仕方 】

《 Windows2000,XP の場合 》

マイコンピュータのアイコン

↓ ダブルクリック

マイコンピュータの中の画面

↓ ローカルディスク (C:) を

↓ 右クリック→メニューの『プロパティ』をクリック

ローカルディスク (C:) のプロパティの画面

↓ 『ツール』タブをクリック

ローカルディスク (C:) のプロパティのツール画面

↓ エラーチェックの『チェックする』ボタンをクリック

チェックディスクの画面

↓ 『ファイルシステムエラーを自動的に修復する』と

↓ 『不良なセクタをスキャンし、回復する』にチェックを入れ

↓ 『開始ボタン』をクリックする

『次回のシステム再起動時にこのディスクの検査をスケジュールしますか?』と聞かれるので『はい』をクリックする

↓ 『スタート』ボタンを押しシャットダウンを選ぶ

↓ 『再起動』を選択してOKを押す

再起動すると、起動時にチェックディスクが始まります。ディスクの容量によりチェックの時間に差がでますが、短くて10分前後、長くて30分くらいかかります。

【 デフラグの仕方 】

『デフラグ』は『最適化』とも言われます。

マイコンピュータのアイコン

↓ ダブルクリック

マイコンピュータの中の画面

↓ ローカルディスク (C:) を

↓ 右クリック→メニューの『プロパティ』をクリック

ローカルディスク (C:) のプロパティの画面

↓ 『ツール』タブをクリック

ローカルディスク (C:) のプロパティのツール画面

↓ 最適化の『最適化する』ボタンをクリック

ディスク デフラグ ツール画面

↓ 『最適化』ボタンを押す

↓ (複数ドライブがある場合、最適化したいドライブを選ぶ)

↓ (通常は、Cドライブ)

『デフラグ』がスタート

『デフラグ』がスタートすると、画面に色グラフのようなものが表れます。これが現在のハードディスクの状態を示しています。

緑色のもの、青色のものは気にする必要はありませんが、何割か赤色の部分が表れると思います。

(WindowsXP,2000のみ。98は『詳細表示』ボタンをクリックするとデフラグの処理状況を見ることができます。)

これは断片化されたデータ(ゴミみたいなデータ)(※1)でそれ自体有害なものではないのですが、放っておいてこれが増えた場合、パソコンの調子が悪くなる原因になります。

『デフラグ』は、作業が完了した際に処理前の状況と処理後の状況の両方見れるようになってますので、処理が完了した時に赤い部分がなくなっている、または減っているのがわかるはずです。

ホ) 非常時対策

絶対に必要なバックアップ

異音ケア

エラー表示の注視

フリーズの対応

マイクロソフトの中断措置

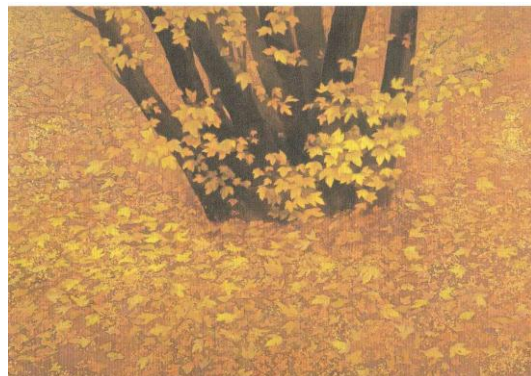
OS復元

リモートサポート活用

最後の奥の手「ハードディスクの初期化」

4) 東山魁夷展

生誕100年を記念する近代美術館の展示は、150点の作品の洪水で、おそらくはもう二度とは見られないと思わせるほどの素晴らしさでした。



—以上—